病害虫対策資料第１号

佐 農 技 防 第 148号
平 成28年4月22日

各関係機関長　様

佐賀県農業技術防除センター所長

麦類赤かび病の防除の徹底について

本年の麦類において播種時期の早いものや麦種によっては、赤かび病の防除が既に始まっておりますが、**向こう一週間の天気予報によれば曇雨天が続くと見込まれ、本病の多発生が予想されるため、**下記事項を参考に本病の防除の徹底について指導をお願いします。

記

１．気象予報

⑴ ４月21日発表の**向こう一週間予報（４月22日～４月28日）**では、**気温は平年並か平年より高く、降水量は平年より多いと**予想されている。

２．赤かび病の発生条件

⑴本病は、**４月下旬～５月中旬頃に雨が多く、気温が比較的高く（20～27℃）経過すると多発生**するとされ、来週以降に感染、発病が進む可能性が高い。

３．防除対策

⑴**小麦における赤かび病の防除適期は、開花期～開花最盛期（出穂期の約10日～14日後）**である。さらに、**その10～20日後に2回目の散布を行うと効果が高まる**（図１、表１）。

⑵**大麦における赤かび病の防除適期は、葯殻抽出始め（出穂期の約２週間後）**である。更に、**その７日後頃に２回目の散布を行うと効果が高まる**（図１）。

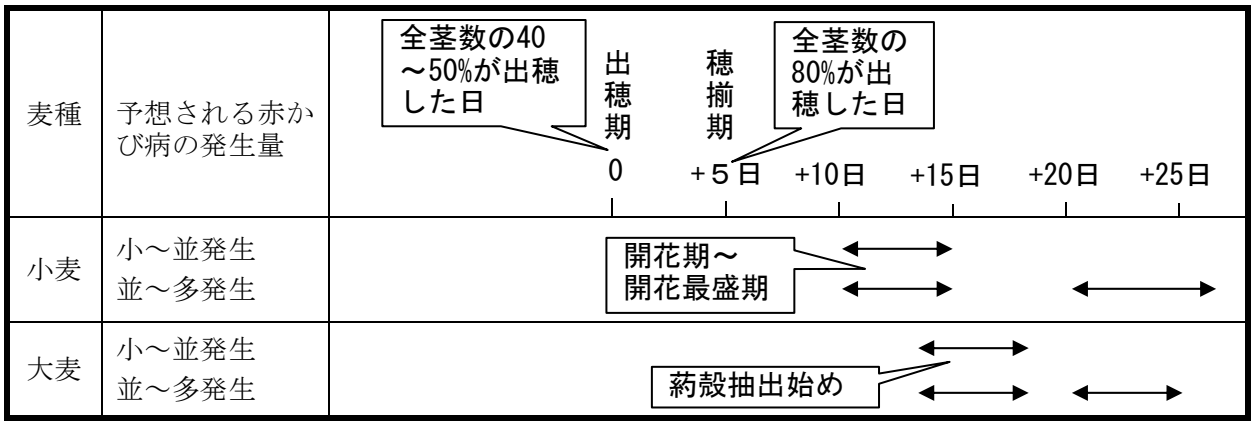
⑶出穂期は、播種時期や麦種によって大きく異なるため、必ず各圃場毎に出穂状況を確認したうえで、適期防除に努める。

⑷赤かび病の防除薬剤は予防効果が主体であり、適期を逃すと効果が著しく低下するので、**防除時期が遅れないようにする**。また、**多発生が予想される場合には、追加散布を実施する**。

⑸**降雨があっても、雨の合間を見て防除を実施する**。

⑹防除に当たっては、農薬使用基準（収穫前日数等）を遵守するとともに、周辺への農薬飛散防止に努める。

図１　赤かび病の防除適期



注１）出穂期とは全茎数の 40～50%が出穂、穂揃期とは全茎数の 80%が出穂した日。
注２）小麦の開花期とは 50%の穂が開花、開花最盛期とは 80%の穂が開花した日。
注３）大麦の葯殻抽出始めとは、50%以上の穂で葯殻が見え始めた日。
注４）大麦で２回目の防除を行う場合、薬剤の使用方法（収穫前日数）に特に注意する。
注５）矢印は防除適期を示し、農薬は次表を参照とする。

表１　チオファネートメチル水和剤の追加散布によるコムギ赤かび病の発病抑制効果（2004年、佐賀県農業試験研究センター成果情報）

散布回数	散布時期				発病度	防除価
	開花最盛期 a)	＋7	＋15	＋20		
1	○				11.4	28
2	○	○			9.3	41
	○		○		9.4	41
	○			○	10.1	36
無　散　布					15.8	

a)開花最盛期：4月21日